



0 1 2 3 4 5
1 2 3 4 5
2 3 4 5
3 4 5
4 5
5

於
乙
午

東
學
圖
書
館

印譜

繪本通俗三國志八編卷之五

目錄

司馬炎篡受禪臺

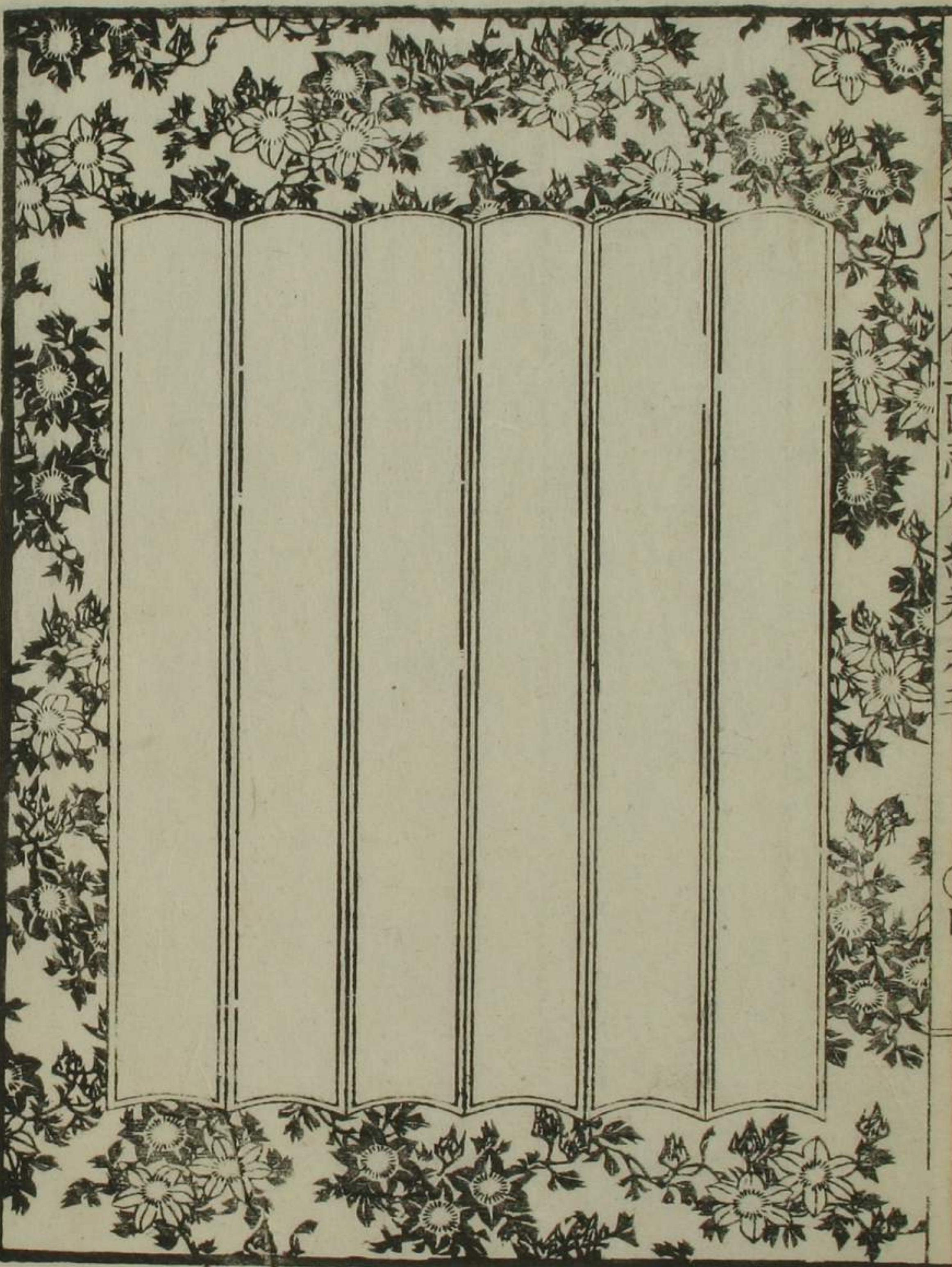
羊祜病中薦杜預

王濬計取石頭城

繪本通俗三國志八篇卷之五

司馬炎築受禪臺

魏主曹奂景元五年改咸熙。二月春三月吳の大將軍丁奉蜀を救ひて五丈の勢より攻上り蜀を滅びて劉禪魏を降す。又呂岱と半途より回をえさせられて吳の中書丞華覈といひの吳主孫休をやけろへ吳と蜀と唇齒の國である。蜀を破りて劉禪降れり。臣までゆく内をど不安らば。陛下も定めぞ哀を悼みり。推量するよ。司馬昭もうらば魏の天下を奪て後大軍を起して吳を攻め。陛下諸君も守の勢を添て深く用心をつく。孫休がよもとして陸遜が子陸抗



と鎮東大將軍と。川口を守らせ。左將軍孫異。南
徐の口を守らせ。江の邊に松百うねの陣屋を造て。大將軍
丁奉。守らしや用心しひく。己そとテウル。爰々蜀の建寧の
太守霍戈。とひゆの建寧の城。在て。成都の破れたる由を
き。卒。素服して西の方。のぞと。三日の間哭き。且。手下
の大将。また。告て曰く。今成都破れて。天子已。降人。とす
えり。此。誰が為。城を守り。ひぞ速。魏。降。又。霍戈。
涙を天がて。ヤル。の遠路相隔て。主上。重んぜ。我。亦。尽く。降。又。方
由。降。參。と受て。主上。一主上。を。輕ん。下。辱。我。主の城。を。枕。と。討死せん。先
成都の様。と委。ままで。此城。を。坐。から。を。諸人。の

忠義を感。じて。も。牙。を。咬。で。相待。不。日。を。経。て。人。えり。
天子。を。で。魏。と。降。り。ひ。洛陽。へ。送。上。せ。て。魏。主。よ
見。下。む。と。告。ひ。と。べ。霍戈。大。怒。り。兵。と。起。し。と。追。蒐。人
と。戮。と。諸。人。兼。て。曰。く。蜀。を。で。滅。び。君。と。も。人。き。人。は
志。に。魏。と。降。て。身。を。保。ん。霍戈。已。と。得。を。て。是。と。從
ひ。洛陽。へ。表。を。上。せ。て。魏。と。降。ら。ん。と。セ。望。む。此。と。た。劉禪
を。で。又。洛陽。と。上。て。魏。主。曹奐。と。見。へ。殿。階。の。下。と。样。伏。ト
ル。と。司。馬。昭。責。て。申。一。ル。と。汝。せ。荒。淫。無。道。と。て。國。の。政
セ。乱。る。と。の。罪。誅。せ。ざ。ん。ば。叶。は。劉禪。怖。れ。戦。き。顔。色。土
の。ど。く。あ。づ。ル。と。べ。魏。の。群。臣。と。え。曰。く。彼。ま。と。ス。罪。あ。く。と。ナ
せ。ど。の。幸。と。多く。降。ま。ア。其。命。を。ク。を。扶。け。と。と。ナ。近

臣奏一て蜀の建寧を守る霍戈といひよりの表を上へると
報ドリとべ乃ち披き見るよその表と曰く。

漢建寧太守霍戈率六部将守上表。曰臣聞人生
於三事之如一惟難所在則致其命今臣國敗主
附守死無所是以委質不敢有二貳

司馬昭見了りて大々嘆ト。嘆ム此のぞき忠義の人ありと
て霍戈を旧の官復し。劉禪が罪を宥めて安樂公と封
ト。住宅を与て绢一万疋奴婢百人を賜ひ其子劉璫え
らび又樊建。雍周郤正六を尽く侯爵より封ト。黃皓が譖
佞よして國を乱り一を憎んで卒々市に半丁て首をきら
ム。次日劉禪又げら司馬昭が家を行て昨日の恩を

謝一ル。司馬昭酒宴を設けて重くゆくは。樂人を命じ
て魏國の樂と奏せしむ蜀の忠臣をとて坐て尽く涙を
あげり。劉禪が笑ひ嬉んで酒を飲。酒宴半々及ぐ。司
馬昭又ひそよ樂人を命じて蜀の樂と奏せしむる。蜀
の忠臣によく涙を咽んで哀しく哭く。劉禪が少く哀
やる色ちく笑ひ嬉ひと初の一。司馬昭蜀の忠臣をむかへ
たりくへ人の無情あるべからども有りのう。假令孔明が再び
来るとも扶け救と能く。况んや姜維が分とし。へうせう
えの愚人を扶くべきとて。又劉禪又問て曰く汝心又本國
と恋しくふゆへう。劉禪答て曰く此間真あり酒宴又あそ
某ちへぞ本國を慕ん。まざらくあつて劉禪坐席を起。衣を





更人にて出リ。司馬邵正も志たぐひ来り。何故々本國と墓へ
ぞといひゆべ。尙重て問ひ必ざ御涙をあびて某が父の
墓遠く蜀の國。此丈又西を望んで心哀しき日夜あり
ぞといひゆとゆべ。然とたゞ司馬公うちうじ宿して蜀
へ回り。私詔ルと云へ答え。然とたゞ司馬公うちうじ宿して蜀
けちへよ。少一醉ルとた司馬昭。問てやうりへ汝がうちうじ本
國。又回らんとあり。劉禪をあむち。邵正が教たる言を陳て。
泣んとまきとも涙出だ。志たぐひ目を塞で顔を皴やすり。司
馬昭曰く。それへ邵正が教たる言を。劉禪がどうひて目を
開き。真と尊命のとてと答ル。満坐も大笑。司馬
昭。劉禪が詣あく。愚痴あるをきりて更ユ疑とす。

リク。浩々と司馬昭。權柄天下。震て。草木も
ちく。魏主曹英の名へ天子とりども。比皆司馬昭。料ひを
受て。心を委て。是より群臣尽く司馬昭を
かゝ。晋王と称。司馬昭をちむ。父の司馬懿を
謚して。宣王と号。兄の司馬師を景王と号。元末女
房王氏。王肅。女。二人の子を生で。兄を司馬炎と
す。人物魁偉。一人の子を生で。兄を司馬炎と
す。其聰明英武。方々人之上。生たり。弟を司馬攸
と。生と付温和。恭儉孝弟。司馬昭。常。司
馬攸を愛して。兄司馬師を家を継ぎ。平生人。語く天下
へ。兄の天下。ううといひ。晋王とちむ。及んで。すゞ

兄の家を継りたゞべ司馬攸をゆりて世子又立人と山
溥諫てヤルクへ兄を廢て弟を立るへ礼又違て不吉へ賈
充何曾裴秀亦も深く諫てヤルクへ長子司馬火火へ神武
英才また超世の人表あり天下又多きを望む人臣乃
相あらば司馬昭又心決せをもして世子いすど定らざり
ルと大尉王祥司空荀顗諫て曰く古より兄を廢弟を
立て國を滅ぼすの役をもたらば必ず深く慮り司馬昭
をも因て司馬炎を立て世子と一中撫軍の職又任を群
臣もさやりくへ近比襄武縣又晝の午の刻天より怪き人下
り身の長二丈あまり又して脚跡を見えど三尺二寸髪雪の
如く又して長き鬚蒼く黄ちう单の衣を被て奇しげある頭

巾をいさき。藜の杖を携て我をもうちじ民の王たり。今未
門で。汝ホ又告知を天下換主立所見太平ぞと。よて。三
日の間市の邊と往来。ノルが勿然とて行方く成た
り是晋王の奇瑞。又應ぜり早く十二旒の冠を被て天子
の位。又即々と。さくらんと。司馬昭大喜び退ひて宮中へ
入る。卒。又中風の疾を受て口を開くと歟。太尉王祥
司徒何曾司馬荀顗。亦と召て手を以司馬炎を指し。たち
うち。又命終。時。又八月辛卯の日。何曾が曰く。天下の大
事。もう晋王。又うと。司馬炎を扶けて。晋王の位。又上せ
りの元。了て父を文王と。蓋を。司馬炎父の業を。継て。何曾
て晋の丞相と。司馬望と司徒と。右苞を。驃騎將軍と。

陳騫と車騎將軍と。或曰。賈充裴秀二人とも。や
久く昔一曹操。天命在吾。其爲周文王。と。ソリと
きく。此事まで。或曰。賈充答て曰。曹操世々漢乃
禄を食て。人の反逆の賊。呼んと。せばり。此言を出
せ。果して。其子曹丕が。よ卒。漢の天下を奪り。司馬
炎が。曰く。父を曹操。又比せ。先君魏を
助けて。己。又三世。ち。曹操と同どうらん。司馬炎問て曰。
いうまゆ。賈充曰く。曹操功の大す。華夏を蓋と
ども。下民その威を。怕として。その徳。又懷。曹丕帝位。即て。
徭役を重く。人民四方。又駆馳。片時。安らぎ。
一。宣王景王志たり。又大功を立て。恩徳を施。一タヒ史。

天下より魏よ心を服せり。文王入魏の為。又危きと扶け。暴
を除き。夕。功。方。世。セ。蓋。あ。よ。す。晋王の位。と。久。夕
り。豈曹操と。日。と。同。ド。ヘ。て。始。ら。ん。や。司馬炎。喜んで。曰。
く。曹丕だも。漢の統。と。繼。ひ。ち。ん。ぞ。魏の統。と。繼。ざ。ら。ん。
賈充。再。抒。して。曰く。主。上。ま。さ。み。曹丕が。漢の。神。を。受。た。る。例
ユ。效。ひ。復。受。禪。臺。と。造。て。あ。ま。る。魏の。統。と。繼。皇帝の
位。又。即。て。天下の人。又。志。ら。し。や。司馬炎。も。又。志。と。が。い。
次の日。劍。を。佩。て。殿。よ。上。る。魏主。曹奐。い。を。ぎ。床。と。下。て。む
くり。と。司馬炎。高坐。と。問。て。曰く。魏の。天下。へ。難。力。ぞ。曹
奐。答。て。曰く。之。又。晋王父祖の。賜。ち。う。司馬炎。笑。ひ。て。曰く。我
陛下。で。え。る。又。文。へ。道。と。論。ざ。と。あ。く。と。武。の。邦。と。経。る。と

あたまに何ぞ才徳ある人を挙げ位を禅り。さる曹莫
大ふ敵馬で口を開てと能ざり。と傍よあつた。黄門侍
郎張節怒てナリ。晋王の言をもとど差り。昔魏の武
帝東西を蕩除し。南北を征討して。容易に得て。天下
をあらざり。今上の天子徳ありて罪なし。何ぞ他入を譲る
べき。司馬炎勃然として曰く。此天下へ元す。漢の天下
をあらざり。曹操丞相とあひて。妄に威を専す。自ら魏
王と称して。卒に漢の天下を奪り。我父祖三世魏を扶
けて。天下を一統したる。曹氏の力もあらざり。比自古司馬氏
の力あり。四海尽く。あひて。我ち。魏の天下を受ざ
る。張節大音あげて。然となりて汝また。國を奪逆賊

ありとよびり。司馬炎によく怒り。張節と並んで
首を刎させ。我漢の為。本て報を。何の不可ある。とあらん
と。ハルシベ。曹英。涙をあぐれて。哀を告ると。之ど。司馬炎
きうよ起て。上去り。曹英。左右を顧て。事もでよ遍り。
いふせんと。問ひて。賈充が曰く。魏の天數まで尽たり。陛下
下さいよ。おいやにとも。今へ叶へ。只晋王の心。又逆れど。
漢の献帝の例を。帶て。受禪臺を。造り。明るよ大礼と。見
て。陛下無慶の禍を免る。魏主曹英やむを得
を。あひて。又ひ。從ひ。賈充。命じて。受禪臺を。きが。十二
月甲子の日を。祝ひ。文武の百官を。尽くあひ。傳國の王

壇を捧げて司馬炎又禪クリ。トバ司馬炎壇より上河にて大
礼を具。曹英て基より下り。公服を被て臣下の列より着
しむ。とたゞ賈充諸人より告てナリ。漢の建安二十五年
又魏漢の禪を受て。今より至るまで四十五年を経たり。天
の祿をじよ終て。天命又晋よりあり。司馬氏の功德天地より
殊縁し。四海又溢る。正又魏の統を継ぐ。帝位も即べ。又
曹英を封じて陳留王とも行て金墉城を守り。都もまた
れぞと云ふ。曹英涙をあがめて生去り。司馬孚こ
る。とたゞれど云ふ。曹英前より拜伏して。臣が死する日まで
又大魏の純臣ううといひ。司馬炎の忠と憐もんで。
平王の太宰も司馬孚さるよ受を。此日文武

の百官三十九歳を呼んで再拜。ト大礼をて畢クリ。ト司馬
炎國を大晋と号へて。太始元年とあらため天下より大赦を
行ひて。諫て納る官を置かとより。大又治。ク民を安堵
の思ひをもつゝ。乃ち祖父司馬懿を宣帝と謚し。伯
父司馬師を景帝と。父司馬昭を文帝と。七庸を
建て。先祖を耀す。七庸ハ漢の征西將軍司馬鈞。との子
預章の太守司馬亮。との子上穎川の太守司馬雋。との子
京兆の尹司馬防。との子宣帝司馬懿。との子景帝司馬
師。との弟文帝司馬昭。大礼尽く定クリ。毎日朝を
設けて。吳と伐の計を相議し。る。

羊祜病中薦杜預

呉の永安七年呉主孫休病又伏て己ニ危くありルを。丞相濮陽奐又太子孫靈軍を托して忽ちニ命終リ。是れ蜀の滅びたるて丈て呉の軍民震ひ怕る。折節あれ。孫靈年幼して國を治ることめなへトとて左典軍萬或左將軍張布より朱太后奏して烏程侯孫皓を立て君とも金を曲げや。朱太后との由て我へ年老たる寡婦あり。社稷の大事へ朝廷の大臣よろしく議せよといひル。濮陽奐卒。孫皓をむりて君とも孫皓字は元宗。孫權が太子孫和が子あり。秋七月皇帝の位又即て元與元年とあらため孫靈を豫章王と封す。父孫和を文帝と謚す。丁奉と大司馬と左將軍張布二人ともを諫て却て三族を滅ぼす。濮陽奐左將軍張布二人ともを諫て却て三族を滅ぼす。浩然と群臣によく懼きて再び諫るゆのう。孫皓心の凶暴と覺れて。又宝鼎元年と改め陸凱萬或を左右の丞相に任す。昭明宮を造て國の費民の哭甚しき。されば陸凱上疏して諫て曰く。

今無災而民全盡無為而國財空臣竊痛之昔漢室既衰三家鼎立今曹劉失道皆為晋有此目前之明驗也臣愚但為陸下惜國家耳武昌土地



魏の襄武縣
天より異人下て
天下太平を示す

民王

險瘠非王者之都。且童謡曰寧飲建康水不食武昌魚。寧還建康死不止。武昌居此足明民心與天意也。今國無一年之蓄。有露根之漸。官吏爲奇擾莫之或恤。太上帝時後宮不滿百景。帝以未乃有千數。此耗財之甚者也。又左右比百非其人群黨相扶害忠德賢此比百蠹政病民者也。願陛下省百役罷苛擾科出宮女清選百官則天悅民附而国安矣。

孫皓自是心內怒。陸凱先朝の舊臣。皓心の内。或色。或色。尚廣と。皓を。天下の吉凶。占ハセリ。尚廣曰く。陛下院民附而國安矣。

の兆あらわし。吉きつ。庚子うねえぬの歲とせ。青蓋せいかい。蓋あさり。洛陽らうよう。入い。人ひと。孫皓そんこう。喜よろこび。中書ちゆうしょ。亟華せきか。覈げい。先帝せんていの時とき。卿きみ。江えの邊へ。多おほの陣屋じんや。造つくる。丁奉とうほう。主す。とまとま。りうちうち。大軍だいぐん。起おこ。洛陽らうよう。攻こう。天下てんか。統とう。劉禪りゅうぜん。為ため。敵てき。報ほう。蜀しょく。主しゆ。降こう。司馬炎じまいん。魏ゑい。入い。新あらわ。業わざ。立た。必ひ。天てん。下げ。大軍だいぐん。兵ひょう。起おこ。固たて。守まも。敵てき。拒き。備そなへ。必ひ。天てん。下げ。德とく。修しゆ。民みん。心こころ。懷くわい。要害要害。取と。見み。意い。公こう。陸りく。下げ。被は。火ひ。滅め。人ひと。必ひ。自じ。然なり。焚や。人ひと。麻あさ。衣ころも。被は。火ひ。滅め。人ひと。必ひ。自じ。然なり。焚や。人ひと。陸りく。下げ。察さつ。孫皓そんこう。怒い。時とき。乘の。下げ。定じ。

人と。汝のうんぞ。浩る不吉の言を吐生せる。若先朝乃舊臣。よあらざん。首て斬て法を正すべし。門外より立身。べ華敷大。嘆息。可惜錦綉江山。不久属他へ。りて。此より。恩道。世々生を。吳主孫皓。卒。群臣の諫。用ひた。鎮東將軍陸抗。大將として。川口。荆及襄陽。と伺。晋帝。大の由。百官。あいやで。宣ひ。る。先帝蜀。平。げゆ。鄧艾。流。志。門。吳。を攻。ん。と。義。然。ど。先帝。用。ひ。彼。急。唐。を。積。で。自滅。も。一。事。清。といひ。今。却。荆。及。を。侵。い。ふ。而。破。え。司空賈充。曰。く。吳主孫皓。無道。政。治。上下。怨。ひ。陸。下。荆。及。乃

都督羊祜。命。ト。是。拒。め。吳。の。國。内。變。あ。ふ。待。勢。ひ。乗。攻。り。定。ら。ん。晋帝。と。よ。従。ひ。急。ぎ。勅。命。傳。羊。祜。敵。を。拒。せ。る。羊。祜。字。ハ。叔。子。と。泰山。南。城。の。人。あ。り。此。と。た。襄。陽。を。守。く。軍。民。そ。の。徳。と。懼。く。常。よ。軍。中。あ。り。そ。も。輕。き。襄。と。き。下。ま。服。せ。と。い。の。は。此。と。た。勅。て。受。て。軍。馬。と。調。て。甲。と。き。護。衛。の。兵。も。三。川。よ。放。十。人。を。用。ひ。且。上。ハ。と。が。謀。将。ま。曰。く。今。敵。の。様。を。伺。ひ。吳。の。勢。こ。ま。ま。たり。荒。で。備。あ。一。攻。せ。り。打。破。ら。ん。羊。祜。笑。ひ。て。い。ま。女。ホ。ミ。吳。の。陸。抗。と。尋。常。の。人。あ。り。と。か。へ。此。人。智。深。く。計。多。一。先。年。吳。王。の。命。て。受。て。西。陵。と。攻。り。歩。闘。と。

誅して其手の猛將。校十人を生捉師と全て國々回り大將あり。我さきよ及工と能を。今孫皓よく人を用ひ。陸抗があらん間へ我亦よく守りて生るとあらず。し其國中より内変あると伺ひ勢ひよ乘て破べ。時を審りよせざりて輕々進ひ敗と見の道ありと云け。且一び諸人并服して境を守り生て戦とちうり。羊祜ある日諸將と共に獵を出る。吳の陸抗も同く生なり。とまで手下の諸軍をよしく戒め。晉の地を獵して吳乃境へ一步も入らざり。と。陸抗をとどめて嘆じて曰く。羊將軍の努力紀律をもとど正し。犯をもうちもとてた。ひよ境を超えて終日獵暮して本陣ぞ回りくる。羊祜

又が陣^{ぢん}を回り。今日の獵^りを得たる禽獸^{けいじゆ}を点檢^{てんけん}し。
吳^ごの獵場^{りば}より。瘡^{きず}と被^ひり来て。晋^{けい}の兵^{へい}を取^とたる獸^{けい}み
れば。比^ひ自^じ吳^ごの陣^{ぢん}を送^{おくり}返^かさしむ。陸抗^{りくこう}との使^しは對面^{たいめん}。汝^なが
主^{しゅ}の羊^{よう}將軍^{じょうぐん}。酒^{さけ}を好みゆうと問^{とい}ひ。使^し答^{こた}て曰く。美
酒^{さけ}あり。必^ひも飲^ひ。陸抗^{りくこう}笑^{わら}ひて曰く。我^{われ}も美^{よき}酒^{さけ}あり。汝^なれ
ど羊^{よう}將軍^{じょうぐん}を獻^げり。此^れは陸抗^{りくこう}が手^て自^じ造^{つくり}る酒^{さけ}なり。一樽^{いつそん}
を送^{おくり}て。昨日^{きのよ}獵^りを生^うたる情^{じやう}を表^{あらわ}すと云^いふ。使^し
酒^{さけ}を持^もり。久^くり。吳^ごの諸將^{しょじょう}と云^いふと怪^{あや}んで。何^{なん}ゆゑ^{ゆゑ}敵^{てき}す
酒^{さけ}を送^{おくり}ゆよと問^{とい}ひ。陸抗^{りくこう}笑^{わら}ひて。彼^{かれ}をとて。又^{また}徳^{とく}を。おどりま
を我^わちゆんぞ。醉^{おひるん}と。ぞやる。羊祜^{ようこく}が使^し。晋^{けい}の陣^{ぢん}を
り。陸抗^{りくこう}がいひ言^{こと}と告^げて。酒^{さけ}を獻^げり。且^{まことに}。羊祜^{ようこく}笑^{わら}ひて曰く。

彼も亦酒を好むとを知たるうとて。樽を傾けと飲
んと。大將陳元といふよりの是を諫め。敵の方より送
くる物もらば。毒めらんといひと。羊祜笑ひて曰く。
陸抗へ毒と用ゐる大將もあらば。何の疑てあらんとて。
卒々尽く飲ると。諸人みな大驚く。是より時々使
を通じて物と送る。或日陸抗病ある由とき。吳乃使
きたりると。羊祜對面してやるゝ。汝主の病も推量
する。我と同どうべし。此薬と推測回りて。陸將軍の又
いやよといひと。使薬と携へ入りて。陸抗又献る。吳の諸
將怪とす。羊祜へ敵の大將も。此薬もとて毒あ
らんといひと。陸抗笑ひて曰く。豈人を酔はす。羊祜

子あらんや必ず疑とちうれとて。卒々サ藥と飲る。次
の日病を下て平愈せり。吳の諸將喜んで。拝賀一け
れ。陸抗曰く。彼へ専ら徳を施し。我へ専ら暴とす。
あと戦ふと。自然服を。さじよく疆を守り。どろの
小利と貧り。辱と恥へからずとて。固く守りて戦とす
り。吳主孫皓あととす。戦ふと。徒々日と送と。
もちと然るべらば。早く攻められと催促一札と。陸抗
まに使と聞。今戦てへ却て禍を耳ん國を治め本を強
い。時と待て戦ふと。表て書てやる。孫皓大怒。それ
をあそ。陸抗陣中にて常々敵と内通さる由とまことに。又
果して。此のとて。陸抗てか一回りて。官と司馬と敗り。

左將軍孫冀と遣て。荆けい州しゆを攻せらとせり。群臣ぐんじん怖ふれ
て諫いさなる。のほ。孫そん皓こういよく惡あと長ちよどて建衡けんこうと改元かげん。一。三
年ねんのち又鳳皇元年ほうこうがんねんと改かり。妄わう々わうわう人民じんみんを苦くるやひやひを。上
下じや怨うらをとゞめ。亟せき相あら萬武まんぶ或も將軍しょうぐん留平りゅうへい。大司農樓玄ろうげん
三人さんじんを諫いさなて。尽つくく市いちを斬さり。或もハ面おもての皮はと剥眼はくがんを。
忠臣ちうしん四十余人よそじんを誅ちう。常つね々つねつね鑑かがたる精兵せいへい五万ごまんを志したた。六
岑昏じんこんととり。安人あんじんを愛あして。方かたの者の心こころを任ます。羊祜ようこく
荆けい州しゆの境さへと守まりて。陸抗りくこうが官くわんと敗ひされたる由ゆと。七。今こ
そ。吳ごの滅めつぶべき時ときされとて。表ひょうと上ありて。晋帝けいてい奏さうを。晋帝けいてい
ひらたえり。其表ひょう又曰いわへく。

先帝西平記蜀南和吳會庶幾海內殆以得休息而
吳復背信使邊事與夫期運雖天所授其功必因
久而成不一大舉掃滅則兵役無時得息也蜀平
之時天下皆謂吳當羌亡自是以未十有三年矣
夫謀之難多決之欲獨允以險阻得全者謂其勢
均力敵耳若輕重不齊強弱異勢雖有險阻不
可保也蜀之為國非不險也一夫荷戟萬夫無
當進兵之日曾無藩籬之限乘勝席捲逕至成
都漢中諸臣皆烏棲而不敢出非無戰心誠力
不抵抗也及劉禪請降詔嘗保素然俱散今江
淮之險不如劍閣孫皓之暴過於劉禪吳人之

困甚於巴蜀而大晉兵力盛於往時。不于此際平中一四海上而更阻兵相守使天下困中十征戍經歷盛衰不可長久也。今若引梁益之兵水陸並下荆刃以之衆進臨江陵。平南豫州直指夏口徐揚青充並會秣陵以一隅之吳當天下之衆勢分形散所備皆急。已漢奇兵出其空虛一處傾壞則上下震蕩雖有智者不能為。吳謀士矣吳緣江為國東西數千里所敵者無有寧息孫皓恣情任意與下多忌將疑于朝士困于野無有保世之計一定之心平常之日猶懷去就兵臨之際必有應者終不能齊力致死已可知也其俗

急速不可持久弓弩戟楯不如中國唯有水戰是其所便一入其境則長江非復所保還趣城池去長入短非我敵也官軍縣進人有致死之志吳人內顧各有離散之心如此軍不踰時可必克矣

晉帝之子亦大喜び諸國の軍勢を起して吳を伐ムと宣ひりそ賈充荀勗二人諫ていまと伐べらばと。いへりそば晉帝又止りゆく。羊祜もことぞやれて長嘆。天下の内よへ必ず意を叶ふる事。十の内よ七年。年又至て羊祜まで。年老て故郷返り。病と類へんとと請りそば晉帝問て曰く。卿いま邦と安んずるの計めらべ朕

教よ羊祜。荅て曰く。吳主孫皓。惡虐。とて又極。とり。國中大
きを怨んで。反ぞといふ。もの。今。也。攻。べ。戰。へ。を。して。吳。を。
ひうち。方。一孫皓。死。して。別。え。賢君。と。立。べ。如何。して。吳。と。貳。と
そ。ほん。今。の時。を。失。ふ。そらば。晋帝。ば。ゆ。も。と。悟。り。て。卿。そく
為。よ。大將。と。あ。ひ。て。吳。を。伐。く。や。と。問。ひ。バ。羊祜。曰く。臣
い。及。年。老。病。發。て。此。職。を。領。む。と。能。を。陛下。よく。智。勇。乃
人。を。挙。り。人。晋帝。あ。ひ。と。称。謝。して。王者。の。輦。と。葬。して。家。よ
眠。ら。其。年。の。十一。月。ユ。羊祜。が。病。を。で。又。危。く。あ。う。ル。と。在。
晋帝。み。け。う。る。其。家。ユ。行。幸。ー。て。病。を。問。ひ。バ。羊祜。涙。を。流
して。臣。万。死。も。陛下。の。恩。ユ。報。む。る。と。能。を。と。い。ひ。ル。と。晋帝。も
涙。と。涙。と。宣。く。朕。深。く。卿。が。吳。を。伐。計。と。用。ひ。ざ。る。と。う。る。む。

誰。も。卿。が。志。と。継。で。吳。と。伐。べき。羊祜。曰く。臣。い。及。死。せ。ん。と
を。愚。誠。を。尽。さ。ざ。ん。が。あ。ぐ。ら。ば。右。將。軍。杜預。ハ。実。ユ。重。
用。ゆ。ぐ。き。ん。ち。う。陛下。も。吳。と。伐。タ。べ。必。を。此。人。を。大。將。ン。ト
タ。と。い。ひ。も。累。を。し。て。息。絶。た。リ。晋帝。吉。と。安。け。て。大。又。哭。
輦。ユ。乘。て。宮。中。ユ。回。タ。ベ。文武。の。百。官。も。尽。く。涙。と。あ。が。晋
帝。勅。と。下。し。て。葬。て。厚。い。大。傳。鉅。平。侯。の。封。を。贈。て。自。ら
あ。き。こ。祭。の。へ。乃。ち。杜預。と。鎮。南。大。將。軍。と。して。荆。翼。と。守
ら。せ。られ。南。国。の。百。姓。羊祜。が。死。した。と。傳。聞。て。皆。市。と。罷
て。哭。哀。こ。境。と。守。る。吳。の。都。が。死。した。と。傳。聞。て。皆。市。と。罷
じ。羊祜。が。常。ユ。峴。山。と。あ。ぞ。び。り。と。思。て。山。の。上。ユ。廟。と。た。て。四
時。あ。と。祭。り。往。來。の。人。の。廟。ユ。立。た。る。碑。の。文。と。読。ん。で



涙と流さざと。つみと無りしる。世の人もとと墮涙の碑と
ぞ号しる。益州の刺史王濬、吳の滅びんと。さるを見て晋
帝又表と上りて伐人とと奏と。その表又曰く。

孫皓荒淫凶逆宜速征伐。若一日皓死更立賢主則強
敵也。臣甘卓作船七年且有朽敗。臣年七十死亡無
日。三者一乖則難圖矣。願陛下無失事機。

晋帝又喜び王濬が論よく羊祜が計又合へ。朕いふ意
と決して吳を伐んと宣ひると。侍中王渾諫やでやる。
吳主孫皓つねに洛陽を攻んとある心ありて軍勢と訓練
と界りあり。今あとで伐人とせば彼が望むるよ落んじ
て。界年もとたば吳の勢もと疲と苦々しく其とた虚よのにて。

伐べ一舉して功とちびぐ。晋帝あとすうて入止りなま
りとバ鎮南大將軍杜預荆乃より表と上りて。も半時
乗じて。吳て伐べ由と奏を。晋帝あととそんで心にまこと
せ。後宮に入て。秘書丞張華と甚と聞ゆ。とて近
臣奏して。邊庭より表と上ると。いいと。晋帝ひらひえ
り。又杜預が表あり。今吳を伐の用意尽く備りく
若中途よしてさり置バ孫皓うちらだ要害を構て守る
い。然とた江上の險阻ひきして渡ると。とほん延引せ
叶はずた由と載たり。晋帝、々せんと安ホド煩ひゆひけ
と。張華座と起て。基盤と推のけ。謹んでやるハ陸
下聖武よして國豊と兵強し。今吳の孫皓淫虐よく

賢人を殺害し。國をでて滅びると。戰ひをして平之。
陸下御心を決して伐々。晋帝をだつちく。喜ば卿が
言わん。利害と志を朕の疑とあらんとて。
朝廷に生て事と義。鎮南大將軍杜預を大都督と
して。十万余騎。江陵より進み。鎮東大將軍司馬
攸を。除中うち。征東大將軍王渾を。油江より。ま
せ建威將軍王戎を。武昌より。進み。せ平南將軍胡奮を。復
口うち。皆五万余騎。杜預。下知を文。又舟
手の大將。龍驤將軍王濬。廣武將軍唐彬。二人。二十万
の帆。又賈充を。都督として。黃鉞を。冠南將
軍楊濟を。副都督として。と。襄陽。又陣と。恥て。諸路乃

軍馬を。撫督として。

王濬計取石頭城。

去程。又晋の大軍。水陸より。攻下る。是の國。又一省。べ
孫皓。大。又。どろき。群臣。と。めり。そ。計を。義。と。巫相張
悌。や。る。車騎將軍。伍延。を。都督として。江陵を。守ら
せ。驃騎將軍。孫歆。を。大将として。夏口。と。守らせ。臣と
けり。左將軍沈莹。右將軍。熟葛覲。を。引。具。し。十万余騎
みて。牛渚を。固。諸方の敵を。拒ぐ。て。孫皓。を。又。從。い。
手配を。定。て。ひ。く。朝。を。退。ひ。て。後宮。入。室。と。佞人岑
昏。問。て。曰。く。陸下。顏色。い。う。れ。バ。夏。ア。た。孫皓。曰。く。晋の
大軍。水陸。より。攻。きた。る。陸路の敵。を。と。又。要害。を。支。く

防うる。又王濬といひての数万の兵舟を調て流す。
たがて攻下る。其鋒をあひど銳す。此と指べき計は岑
昏が曰く。臣一の計也。王濬が船を尽く。機塵もまき
ん孫皓が曰く。卿いうちの良計うあらか。岑昏が曰く。元す
江南の地へ鉄錐。今鉄をよりて長さ數百丈重二三
十斤の鎖を造せて江の面に是と張。又長さ一丈あまり
錐を造て水の底にいと立置。敵の舟順風に乗じてき
たらん。又錐よりて尽く破り。又鎖を支らとして飛ぐ
も大江を渡り。孫皓大喜び急國中の鍛冶を江の邊に
集て日夜を分たを造せて万全の計ちうとと思ひる。お
とた。晋の大都督杜預。己又江陵又出で大将周旨をや
て計を授け。汝の舟手の勢八百人を率いて密々小舟
の内で江を渡り。夜又紹とて樂鄉をかそひ山林の間を多く
旗を立て。昼夜鐵砲を鳴り。鼓を打。夜は燐火と篝火を燒
烟をあげて。敵の人を疑へやよといひひと。周旨ひそひ
江を渡り。巴山とよひて埋伏を次の日杜預水陸よ
り進み。且つ吳の大將伍延。兵を引て陸路を支へ。陸景
舟手と司て先手の大將孫歆一番よ進来る。杜預暫く
戦て。詠て退きる。孫歆勝の内で二十里あまり追ひ
れ。忽ち一色の鐵砲を鳴り。而晋の伏兵四方より起る。吳
の勢大よ乱り。とんぐり走り。杜預勢ひよの内で敵を
討と板をきらぐ。孫歆残少よもうて巴山の城に入り

れべ。晋の大將周旨。八百の兵を引て乱れたる吳の勢よ。どへり。城中又入て火を付たり。孫歆大よどろた。此所よ敵あくへ飛び江を渡たるといひて門を開て上んとする。を周旨。追うけて一刀又切て落とし。吳の大將陸景。南の岸。又兵船を調へ遙々巴山よ火の起をうて味方の勝負あら元もと。伺ふ不よ忽然とて山際の松陰す。晋の鎮南將軍杜預と書たる旗をはせし。一時此へひそく瞻む。冷し。遂きて嶼より上らんとども。晋の大將張尚馬とて追ひき卒。首を取てはしあげたまび残る勢へ十方よ散乱せり。吳の車騎將軍伍延。諸方の攻口破れたるを見て。丘陵城を奔て走り。が晋の伏勢。生捉として卒よ。

首を刎られり。此よりて江陵城破とれ。浣湘を打通て直に黄刦へ進ひ。手よまくものもあらず。郡守縣官。いよ戦へざるさん。風を望んで降人とちる。杜預百姓を安んじて。秋毫も犯さず。武昌城を攻うれば。一支ゆせて皆門を開て降とひ。また。軍威四方よ振て吹風の草と。まび度どくちうる。建業を取の計と。義を。平南將軍胡奮が曰く。呉へ百年の仇根深く。尽く。服まぐらば殊よ春水漲来て。久しく。畠ると。とぬに。あらぐく。軍を收め。冬よ至りて又進。杜預が曰く。むし。東。西の一戦。呉の國の強を破る。今。味方威風大よ振て勢破竹のじ。数節のち。皆又を迎て解。人手を着る。不あふ。

とほとて大軍を延て建業を攻き。舟手の大將龍驤將軍王濬へ一枚の兵船を連絡し下りる。吳の軍を拒めまく。降人を止めるのをもとだ。とたゞ先手より報じて。吳の勢が水中に鉄の錐と立長き鎖を張て待つけたり。軽々と進み。味方の舟をよどまんと告り。王濬もさ笑ひ。何程の事う。あらんとて大きき筏で多造しそ草を束て人形を構へ。弓箭兵杖を持せて。怪しく筏のせ水も順りて真先も流れ。我さて外さる水へ急ぐ。吳の勢よとの人ありと。かひ我さてと外さる水へ急ぐ。水中より立たる錐尽く。筏より引取て流されべ。又水をはたる兵を押して筏のせ長さ十丈あまりの大火炬を

造て油をそぎ。鎖を張たら不ぞよ。おびしく投下。くるよ。水面の鉄索尽く断て。さとより路ひらけ。王濬が大軍。だちよ進んで。むろ不勝をとよとす。吳の丞相張悌。牛渚を守りて居た。敵をでよ攻近付とぞて。よげ沈堂。諸葛觀二人を生じて戦ひ。沈堂をうち諸葛觀。ひ角てやる。諸方の攻口又は破れても。あと去て江を渡り。不幸にして打負るとぞ。國を滅ぼす。諸葛觀曰く。あと実。某が心。叶うとて兵の手配をうち。早馬きた。晋の舟手の勢が流も順りて攻下る勢ひ。ちとぞ大よとて。味方全く破たり。告げ

れべ二人色を失ひ急ぎをせ回て亟相張悌さち見へ國己
又安^{あん}。早く晋^{しん}に降らんといひりて張悌^{さち}からへ國
家^かを滅びん。賢愚^{けんご}を共^{とも}す。今も君臣^{くんしん}こ
とぐく降らば。一人も國の為^{ゆき}死^しむるやあらば是^{これ}大^おき
羞^ぢもらば。諸葛覲^{よしがく}曰く存亡^{そんむう}は天數^{てんすう}。亟相
一人へよ思^{おも}へ召^{めし}。甲斐^{かい}あるは。何故^{なぜ}えりへり。死を
求^めらむるや。張悌^{さち}涙^{なみだ}をあらはして曰く。今日へよう。こそ死を
る日^ひあり。我^{われ}切^きり。此國の祿^{ろく}を食^くて位^いをとでよ亟相^{さち}のだ
り。國^{こく}滅^めば我^{われ}も共^{とも}死^しびん。安^{やす}んぞ命^{みこと}を惜^かんで。不
義^ぎの名^{めい}を恥^{はず}しやといひ。諸葛覲^{よしがく}も涙^{なみだ}をあまえて去^さふ
。張悌^{さち}乃ち沈堂^{しんどう}を伴^{とも}ひ討^う残^{のこ}したる總^{そう}の勢^ぜをうけて

進^{すす}みり。晋の大軍四方より追^おり。周^{まわ}す旨^し。張尚^{さち}など云
大將^{だいじょう}と討^う取^く耳^じ人^{ひと}と切^きてくりる。張悌^{さち}力を奮^{ふん}て散^{さん}くよ
戦^{たたか}ひ。卒^す々^々乱軍の中^{なか}死^しる。沈堂^{しんどう}も周^{まわ}す旨^し討^うきて残^{のこ}
る勢^ぜ。四方^{よつがた}と散^{さん}て落行^{おと}り。牛渚^{うしじ}もで^は破れ^はり。王濬^{おうじゅん}
洛陽^{らくよう}へ人^{ひと}を上^あせて捷軍^{せきぐん}を奏^さ問^{たず}す。晋帝^{しんてい}うだりちく喜^よ
びゆ。賈充^{かじゅう}や^うる。呉^ごひよ^と尽^{つく}く平^へぐ。殊^{さう}さう暑^よ氣^き
の。うち^{うち}ごど^{とき}時^{とき}よ及^まんで中^{なか}國^{こく}の勢^ぜ深^{ふか}く。呉^ごの境^さへ入^いるべ。
うち^{うち}疫^{えき}疾^きを發^あす。暫^{まことに}く軍^{ぐん}を收^め。時^{とき}を待^{まつ}て討^うりや
。満坐^{まんざ}の朝臣^{ちあんじん}も^も賈充^{かじゅう}が不^ふ萬全^{まんぜん}の計^{けい}をうと奏^さ
る。張華^{ちあ}な^と一人^{ひとり}争^{あらは}ひ。諫^{いさ}て。や^うる。今^{いま}官軍^{くわんぐん}と^とて^て敵^{てき}
の巢^巣を深^{ふか}く入^いて。呉^ごの軍民^{ぐんみん}尽^{つく}く。謄^たて冷^{ひや}。孫皓^{そんこう}を擒^とる。

せんと一月の内を生べからば。陛下も固く御心を決した
又がんべ徒らよ前功を廢す。賈充怒てナル。御辺
天の時を省ざ地の利を審う。せざと妄々兵をさしめて天下
下の人馬を苦しめとひ。首を斬ても厭である。晋帝笑ひて宣
ひり。汝もとて怒て發する朕が心も張華も同ド。何
ぞ争て用ひんとたよ鎮南將軍杜預表を上ると奏し
近臣ひつた読み。兵を進めて吳を滅ぼさん。
此とたを失べらどと書たり。晋帝より御心を決し。
勅を下して速く根を絶べき由を告る。杜預王濬
大喜び水陸とよ進んで其勢い風雷の如く。吳主孫
皓の由をみて震ひ怕と。今諸方の攻口も破れて諸大

將尽く討死せり。いきせんと哭き。爾く殿中護衛乃
勢校百人頭を叩て。ナル。北國の敵軍深く國の
境に入く。味方の軍民たゞへどもとも降ふ。人の禍乃
真へ。佞人岑昏が。貌に暴かる。てりて。大将も士卒も忍
みを含む。福ぐく。岑昏を殺したま某
ホ命をとそ。敵よ當らん。孫皓曰く。量よ岑昏。有
の内官いきで國を乱ふ。とあらん。諸人もえ曰く。陛下
ちうごろ蜀の黄皓をうへをや。孫皓曰く。志らぶ。此
者の一命を助け。官を剥で奴とあさん。諸人耳もま
い。入とぞ。宮中又打にて。岑昏をひきと。その肉を一口かく
食べて快ひまと喜ぶ。此よかひて大將陶濬ホナル。臣

圖 大為萬統天下司馬炎
平四民無海無一



ひらへり。舟手の勢力二万人を率す。大船より敵をや
ぶらん。孫皓志りとて。御林の軍と調合し。陶濬を
是を率して。前將軍張象と。一手よ分量て。水みさるの本
る。俄々西北の風吹て。旗を立まゆもあく。逆浪天を
拍て。見る。膽冷まドウリ。枝百艘の兵船。支行方
ちく吹ちらきて。口、張象が舟をう。枝十人よて残りく。
晋の大將王濬も。兵船を連ね。帆をむいて。進ミル。象が
三山をとぐふ不よ。波めりく。風をばかよ。水手楫耳あ
てさへ。此体よてへ渡り。暫く風のあむ。よめへ
一と。戦。一と。巴王濬劍を抜て怒り。我い。目の前。石
頭城を取んと。如何よ。あらリ。とて。追手の風。又船を

とひれてやあ。命。背ぐ。斬て。そとんとよて。卒。鼓躁
して。大々進ひ。吳の勢力よとて。叶。とや。すひ。い。よ。ど
戦。くる。さ。前將軍張象盛を。卸で。降人。こちる。王濬
對面して。ヤリ。へ。汝。よと。よ味方。と。ちり。べ。先手。よ。そ
で。城を破り。張象を。き。手勢を。引て。真先。よ進。と
ちよ。石頭城。よ。行。て。門を。ひらけ。とよ。つり。と。内。よ。味
方。入り。と。門を。開。き。る。よ。晋の大軍。尽く。乱。と。入り。
火を。うけ。喚。の。吉。を。あげ。れ。べ。吳の。勢。拒。ぐ。べき。力。あ。く。と
ぐく。降人。と。ちる。吳主孫皓。へ。と。ぎ。う。首。と。刎。ん。と。志。る
セ。中書令胡冲。光祿勳薛莹。ま。よ。か。と。ら。て。ヤリ。君
き。んで。安樂公劉禅。み。あ。う。晋。よ。降。て。身。を。保。ち。ゆ。ぎ

る。孫皓^{トト}と^シ又^{シテ}從^シへ遂^シと^シ輿櫬^{ヨリ}を備^エて。君臣^{ミコトノミコト}と^シ自縛^{ドモ}。
と^シて降人^{トト}と^シ上^ルと^シべ王濬^{トト}と^シと^シ請^シ取^リて。と^シの繩^{トモ}と^シき
也^シ。國中^{トコトコ}の囚籍^{ヅセキ}と^シ納^メて。吳の四^シ州^{シテ}四十三郡^{ジヨウ}三百十三
縣^{ケン}家數^{カウジ}五十二万三千。軍吏^{ムリ}三万二千。軍兵^{ムンブ}二十三萬。
男女老少^{トモ}二百三十万。米穀^{ヒヨク}二百八十万石。兵船^{ヒガ}五十
余艘^{トモ}。後宮^{トモ}の美女^{ヒメヨシ}五千余人。尽く王濬^{トト}と^シ手^ヨ属^ス。と^シ
り^シクリ^シと^シ、陶濬^{トト}が^シ懃^ハ努^ハ。戰^ハと^シて破^シ。次の日^ヒ陸路^リの
寄手^{ヨシド}鎮東將軍^{チントウヨウジン}司馬^{シマ}、建威將軍^{ケンイヨウジン}王戎^{ウエイ}、^ホ尽く來^シ。内
署^{トシ}翌日^{ヒテ}杜預^{トト}又^{シテ}來^リ。大^シと^シ諸軍^{ツグン}と^シ賞^シ。倉^{トモ}を發^シて百姓^{ヒト}
と^シ賑^ハ。トル^シと^シ、吳の軍民^{ムンブ}と^シ安堵^{ハシタ}。平定^{ハシタ}せり。吳の建
平の太守^{トシ}吳彥^{ヒダルム}、城^{トモ}を守^リて。ひ^シ又^{シテ}攻^ミと^シど^シ、洛^{トモ}を^シう^シ。

國^{トコトコ}の滅^ヒびたる^{シテ}、や^メて城^{トモ}を出^シて陣^{シテ}。王濬^{トト}と^シの忠義^{チヨウギ}
と^シ感^ト。天子^{トモ}と^シ奏^シて。金城^{トモ}の太守^{トモ}とも。晋帝^{ヒシテ}呉^{トモ}乃
滅^ヒびたる由^{トモ}と^シて群臣^{トモ}と^シ賀^シ。盃^{トモ}をあげて宣^{ハシタ}ひ^シ
と^シ。此^{トモ}羊祜^{トト}が^シ力^{ハシタ}。惜^シむらく^{ハシタ}直^シ、^シ吳の滅^ヒびたるを
見^シ。せ^シり^シ涙^{トモ}と^シて、涙^{トモ}と^シて群臣^{トモ}と^シ黙^シ然^シと^シ。
り^シ吳の驃騎將軍^{トト}孫秀^{トト}、國^{トコトコ}の滅^ヒびと^シて、南^{シテ}、^シ望^シぐ
よ^シ。此^{トモ}國^{トコトコ}を閑^シて、王業^{トモ}を創^シ。今^{トモ}孫皓^{トト}、是^シを^シ廢^シ。
大^シ哭^シ。昔^{トモ}討逆將軍^{トト}孫堅^{トト}、年壯^シと^シ、綱^{トモ}ある。校尉^{トモ}の職^{トモ}
悠^シく蒼天^{トモ}。何人哉^{トモ}。と^シて涙^{トモ}と^シて涙^{トモ}と^シて。時^{トモ}天康元年^{トモ}、夏
五月^{トモ}江南^{トコトコ}定^リ。王濬^{トト}と^シ師^{トモ}を^シ收^メて、洛陽^{トモ}へ回^リ。孫皓^{トト}
を行^シて天子^{トモ}と^シ見^シ。晋帝^{ヒシテ}坐^シて賜^シ。朕^{トモ}の座^{トモ}を設^シて卿^{トモ}を

待て。と々と宣ひるべ。孫皓答て。ヤリ。ハ臣も。南方。於て此座を設て。陛下を待て。と々と。うき。晋帝太。ユ笑ゆ。ハリ。と。賈充傍。又。あつて。問て。曰く。孫皓。吳。又。ア。人の面。剥ぎ。剥。ある。ひ。眼。と。下。と。ア。如。何。ち。る。罪。此の。とく。罰。一。孫皓。答て。人の臣として。君を弑す。奸佞。又。不忠。ある。者。皆。此の。如。刑。を。用。ひ。ハ。賈充。心。羞。て赤面。晋帝酒宴を設けて。吳の君臣。とりて。孫皓を。歎。命。公。又。封。して。其子。孫封。を。中郎。又。任す。亟。相。張。悌。が。忠義。死。たる。て。憐。よ。し。で。其子。孫。を。重く。賞す。王濬。を輔。國大將軍。又。封。ド。其餘の。將士。尽く。恩。賞。あり。て。天下。大。又。定。る。蜀主劉禅。晋の太康七年。又。薨。魏主曹奂。太。

康元年。又。薨。吳主孫皓。太康四年。又。薨。此。す。三國。晋帝。又。取。て。司馬炎。一統。の。天下。と。あ。方。民。無。為。の。化。又。服。一。四海。初。て。太平。を。樂。む。と。こ。て。目。出。度。ル。且。

卷之五

卷三十一

白玉都
池田東籬雜主人校

卷之三

卷之三

東武首蜀飾戴斗重

卷之三

淨書 浪華
京師 内山 蟻窟
井上治兵衛

訛 票

繪本二國志 千葉義重著
大和朝の傳説を都へて
あつてはまきしむるの事
ひきのまくが画してよし
アラシのあづひ今クサミ
アラシ文八と云ふ
アラシ文八と云ふ

和漢書
内傳
新舊唐書
通鑑

人復以齋懦博鬱而角

群玉堂內屋
閭田侯公
子衡

